

サクラがさいたよ

大和高田市にある「大中高おおなかこうえん」には、おおくのサクラがうえられています。春はるにはこうえんがサクラの花でうめつくされ、「高田たかだの千本せんぼんさくら」として、おおくの人がお花見はなみをたのしみます。けれど、ふゆの「大中高おおなかこうえん」のサクラには、花びらどころか、はっぱもほとんどありません。たくさんうえられているサクラが、冬ふゆのつめたいかぜにゆらされて、さむさでふるえて いるようでした。



冬のこうえん

ちいちゃんの学校がっこうでは、三がっきのひる休みに、ぜん校がっこうでなわとびのれんしゅうをしています。ちいちゃんのもくひょうは、二じゅうとびです。ところが、なんどやってもうまくできません。ちいちゃんは、まい日、学校がっこうからかえると、お母かあさんと いっしょに「大中高おおなかこうえん」でひみつのとっくんをしていました。トントントン、ヒュンヒュッ。

バチツ。

「いたっ。」

なわが、あしに あたり、ちいちゃんはあまりのいたさに しゃがみこみました。「やっぱり できない。ずっと がんばっているのに。」

そんなちいちゃんを見て、おかあさんは言いいました。

「ちいちゃん。サクラの えだをよく 見てごらん。」

えだの さきを見てみると、ふっくらとした ちやいろの つぼみ、うすみどりの つぼみが たくさん ありました。

「うすいピンクの つぼみもある。もうすぐ さくのかな。」

「サクラは冬のあいだ、はっぱもなく、じつとねむっているみたいでしょ。けれどね、春はるに 花を さかせるために、すこしずつ せいちょう しているのよ。それとね、花が さく

時期じきも、つぼみによって、ちよっとはやかたりちよっとおそかったり、ちがうんだよ。」

ちいちゃんは、もういちど つぼみたちを見上げました。

「おかあさん。サクラの つぼみは、じぶんが いっさくのか、わかるのかなあ。」

「どうだろう。いっさくかはわからないけど、きつときれいな花が さくとしん



サクラのつぼみ

じて、さむさにたえてがんばっているんじゃないかな。ちいちゃんのニじゅうとびの花も、きつとさくわよ。」

お母さんは、ニコツとわらって言いました。ちいちゃんは、まわりのサクラを見ながら、なわのもち手をぎゅつとにぎりしめました。

(さくのをしんじてがんばるか。)

トーントントン、ヒュン。

トントントン、ヒュッ、バチッ。

ちいちゃんは、なんどもなんどもとびました。そろそろあたりがくらくらなくなってきました。こうえんにはちいちゃんとおかあさんしかいません。

「ちいちゃん。もうくらくらくなってきたから、つぎはあしたにしよう。」

「あと一かいだけ。あと一かいだけ。つぎでおわりにするから。」

ちいちゃんは、しっかりなわをもつて、こころの中でかけ声こゑをかけます。

(せえのっ。)

トントントン、ヒュヒュン。

(とべた?もういちど。)

トントントン、ヒュヒュンッ、ヒュヒュンッ、ヒュヒュンッ。



春のこうえん

「あつ。とべた!」

「ちいちゃん。やったね。すごいね。とべたじゃない。」

お母さんがかけよって、ちいちゃんをぎゅつとだきしめました。

「やったあ。わたしにもできたよ。ニじゅうとびの花がさいたよ。」

○ お母さんにだきしめられたちいちゃんは、どんなことをかんがえていたでしょう。

○ あきらめずにさいごまでとりくんでよかったと思ったことはありますか。また、これからがんばっていききたいことはどんなことですか。